



マンション防災は コミュニティづくりと創意工夫で



東京都杉並区 グランドメゾン杉並シーズン 管理組合 防災会
防災委員長 松尾 英史

1 はじめに

グランドメゾン杉並シーズンは、東京都杉並区と練馬区の区境にあり、6階～14階建の中高層マンション8棟に、684世帯、約2千人が居住する大規模マンションです。各棟が異なる独特な形状で、緑豊かなマンションです。

平成19年の竣工以来、マンションとして防災組織はありませんでした。東日本大震災を契機に、管理組合理事会中心に検討を進め、平成25年3月の管理組合総会で、防災対策専門組織・防災委員会の設置が可決、同7月、全居住者で構成する防災市民組織「グランドメゾン杉並シーズン管理組合防災会（GMSS防災会）」が発足しました。

2 居住者全員参加の防災組織

GMSS防災会は、公助に依存しない「自助の推進と共助の強化」を目標としています。その組織的な特徴は、8棟の各フロア組織を基盤とした、全居住者が参加する仕組みにあります。毎年、各棟でミーティングを開催し、防災委員を選出すると共に、各フロアのフロア担当を決めます。多くの居住者が防災委員やフロア担当を担うことで、設備や備品の取扱を知ってもらい、震災発生時にマンションにいる住民を中心に動ける体制作りを

狙ったものです。

このミーティングは、棟、フロアのコミュニケーションの場でもあり、簡単なクイズによる防災意識啓発や、情報交換の場としても根付いています。

3 具体的な取組

年に一度の大防災訓練のほか、地域防災活動への参加を含めて幅広く活動していますが、ここでは特徴的な取組について紹介いたします。

(1) 伝令ロープ＝迅速な情報伝達の工夫

発災時に各戸は安否を知らせるマグネットシートを玄関に掲示し、フロア組織は各戸の安否状況を把握し本部に伝達します。高層階を含む多くのフロアから、情報を十数分で収集する手段として「伝令ロープ」を開発しました。各棟にある吹き抜けを活用し、安否確認用紙を入れたパックを階下に落とし集約する仕組みで、アームとロープからなります。安全



かつ簡単に取り付けられるように工夫されており、DIYに優れた住民による手づくりの道具です。

住民の創意工夫による手作りの防災ツールを、マンション独自の仕組みとして活用することで、コミュニティの形成にも一役買っています。

(2) 子ども避難所

当マンションは、40代の働き盛りと10歳までの子どもが多くを占め、共働き世帯も多数という特徴があります。そこで、帰宅困難者対策について保護者や地域の関係者の方々と検討した結果、マンション内に「子ども避難所」を開設することにしました。



子ども避難所

震災時の帰宅困難状況下、保護者不在の子どもが身を寄せる場所として、平常時のキッズルームを子ども避難所とし、

住民同士で子どもを保護するとともに、保護者に子どもの安否情報を伝達する仕組みを整備しています。

4 今後の課題

今後の主な課題は以下のとおりです。

(1) 生活維持対策

防災直後の対策は一定の水準に達していると考えますが、長期にわたりライフラインが断絶した際の対策はまだ検討途上です。特に、配管損壊で使用停止の恐れがあるトイレとゴミの問題は、マンションならではの難しさがあり、ルール策定や設備点検手段の明確化など、これからの検討課題です。

(2) 組織の継続

短期間で立ち上げてきたこともあり、スタッフの負担の高さが居住者の心理的障壁となっていることは否めず、組織継続にはまだ不安があります。また、女性や、次世代を担い体力的にも頼りになる若い世代の参画は、少ないのが実状です。

防災会としての活動を、創成期の急発進から成熟期の定常運行に変えていく一方で、緩やかな防災ボランティア組織による下支えや、コミュニティの活性化によりマンション全体のより広がりのある共助力の向上に取り組んでいく必要があります。

まだ4年の歴史しかなく、課題も山積していますが、本当の意味で頼りになる防災組織を目指して、引き続き取り組んでいきたいと思えます。